



大津港で水難救助訓練



8月27日、大津漁港で大津消防団、豊頃消防署、各警察官駐在所合同で水難救助訓練が行われました。今回の訓練は、釣り人が海へ転落した場合を想定した訓練が行なわれ、救助用のロープが入ったバッグを投げて海に落ちた釣り人を引き寄せ、救助するという内容で実施しました。「救助用のロープを救助者へ向かって投げることの難しさや、各機関との連携が必要なのが改めて理解できた」と、茂岩駐在所平野所長は話し、この訓練がとても有意義だった様子がうかがえました。また、「もっと沖に流されてしまった場合は船やヘリでの救助も視野にいれなければならない。お互いの連携を大切に、今後も訓練を重ねたい」と重要性を話しました。

える夢館で「防災キャンプ」



9月1日から2日にかけて、2年に1度の小・中学生を対象とした「防災キャンプ」が、える夢館はるにれホールで行われました。はるにれホールを模擬避難所として1泊2日、子どもたちは協力して生活します。今回は野外調理を実施し、電気やガスが使えないと仮定して落葉や枯れ枝を使って火をおこす方法や、空き缶を使って米を炊く方法など、サバイバル体験を通して食事の大変さや、多様な防災グッズから、防災についての知識を深めました。



長節湖で写真展を開催



9月11日から16日までの6日間、大久保真さん（帯広市在住 湿地写真作家）がいんかるし〜長節で『大久保真写真展「bague（ベイグ）」』を開催しました。この展示会は「帯広コンテンポラリーアート2018」の一環で、今年は「河口」をテーマに、参加したアーティストが選んだ河口で芸術活動等を行っています。

大久保さんは長節湖など、豊頃町にある湖や海などを撮影した作品を中心に、写真や散文などを展示しました。色彩が抑えられた作品からは普段見ている長節湖とは違う景色があり、「手つかずなまの自然の美しさを伝えたい。身近にある水場の美しい風景を感じてほしい」と話しました。

「和心ブラザーズ」コンサート



9月4日、「和心ブラザーズ」がえる夢館はるにれホールでコンサートが行いました。チケットは当日までにすでに完売しており、満席となった観客席では、繊細で力強い三味線や太鼓の音に手拍子を送り、会場が一体となって演奏を楽しんでいました。また豊頃太鼓童遊会のメンバーも共演し、「花火」などの演奏を披露し、いっそう観客を沸かせました。

そして3日、4日には各小中学校を回ってアウトリーチを行い、三味線の歴史や和太鼓の種類など、子どもたちは触れる機会の少ない和楽器を体験することができました。体験した子どもたちは「難しかったけど、楽しかった」と話し、三味線や太鼓に親んでいました。

町職員2名を災害派遣



9月14日、北海道胆振東部地震における災害派遣の出発式が役場前駐車場で行われました。

出発式では宮口町長が「被災者の方々に安心、安全を届けてほしい。今回得られた経験が今後の有事の際に役立つはず。無理せず健康に気をつけて」と激励しました。

職員は15日から19日までの5日間、安平町を中心に活動することが決まっており「慣れない土地での支援活動に不安もあるが、被災者の方々が早くいつもどおりの生活に戻るよう頑張りたい」と意欲を語りました。

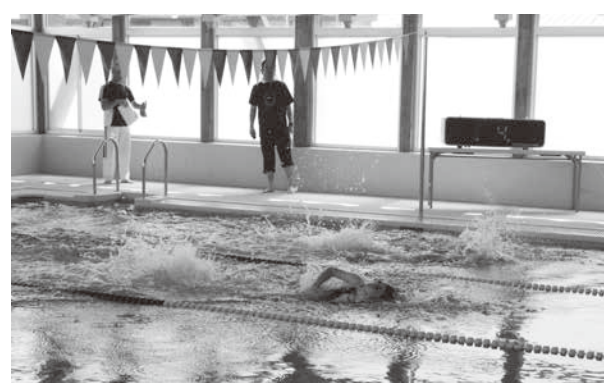
単身高齢者世帯等を訪問



9月6日に発生した北海道胆振東部地震において大規模停電が起こったことから、役場福祉課が2日間にわたり、おおむね80歳以上の単身世帯および要援護者のいる夫婦世帯など、128世帯を訪問しました。

職員は停電によって劣化した生鮮食品を食べることによる体調不良等を懸念して、非常用食料の調理方法などを説明しながら安否確認を行いました。支援を受けた世帯は「こうした食べ物があるのはありがたい」と職員へ感謝を伝えていました。

豊頃町水泳大会



9月1日、豊頃町水泳大会が豊頃町民プールで開催されました。各種目の優勝者は次のとおりです。
▶男子＜自由形＞【25m】(小2)横尾悠人41秒81＜ビート板＞【25m】(小2)横尾悠人39秒07
▶女子＜自由形＞【50m】(小4)津久井結月58秒02(小5)今村都和52秒26【25m】(小2)武野絢歩42秒97(小3)今村紗夜42秒44(小5)永原乙葉24秒10＜ビート板＞【25m】(小1)津久井千晶54秒75(小2)武野絢歩37秒15(小3)今村紗夜39秒64＜背泳＞【25m】(小4)津久井結月32秒28(小5)小坂井陽奈乃29秒83【50m】(小5)今村都和1分3秒27＜平泳＞【50m】(小5)田中璃子1分21秒49

姉妹都市サマーランドから帰町報告



8月24日、役場応接室で、姉妹都市カナダ サマーランド市への中学生派遣交流事業帰町報告会が行われました。派遣団長の島崎さんは「英語で意思疎通ができたことが嬉しかった。学校で学んでいたことを越えた体験ができた。この経験を将来へ生かしたい」と話し、他の参加者も「またカナダへ行きたい」「英語でコミュニケーションが取れたことが嬉しかった」など、今回の事業がとても有意義であったことが伝えられました。

報告を受けた宮口町長は「元気で無事に帰ってきたことが嬉しい。国際的な視野を身につけてくれたのでは。大人になってもう一度訪れてほしい。大変お疲れさま」と生徒たちを労いました。

